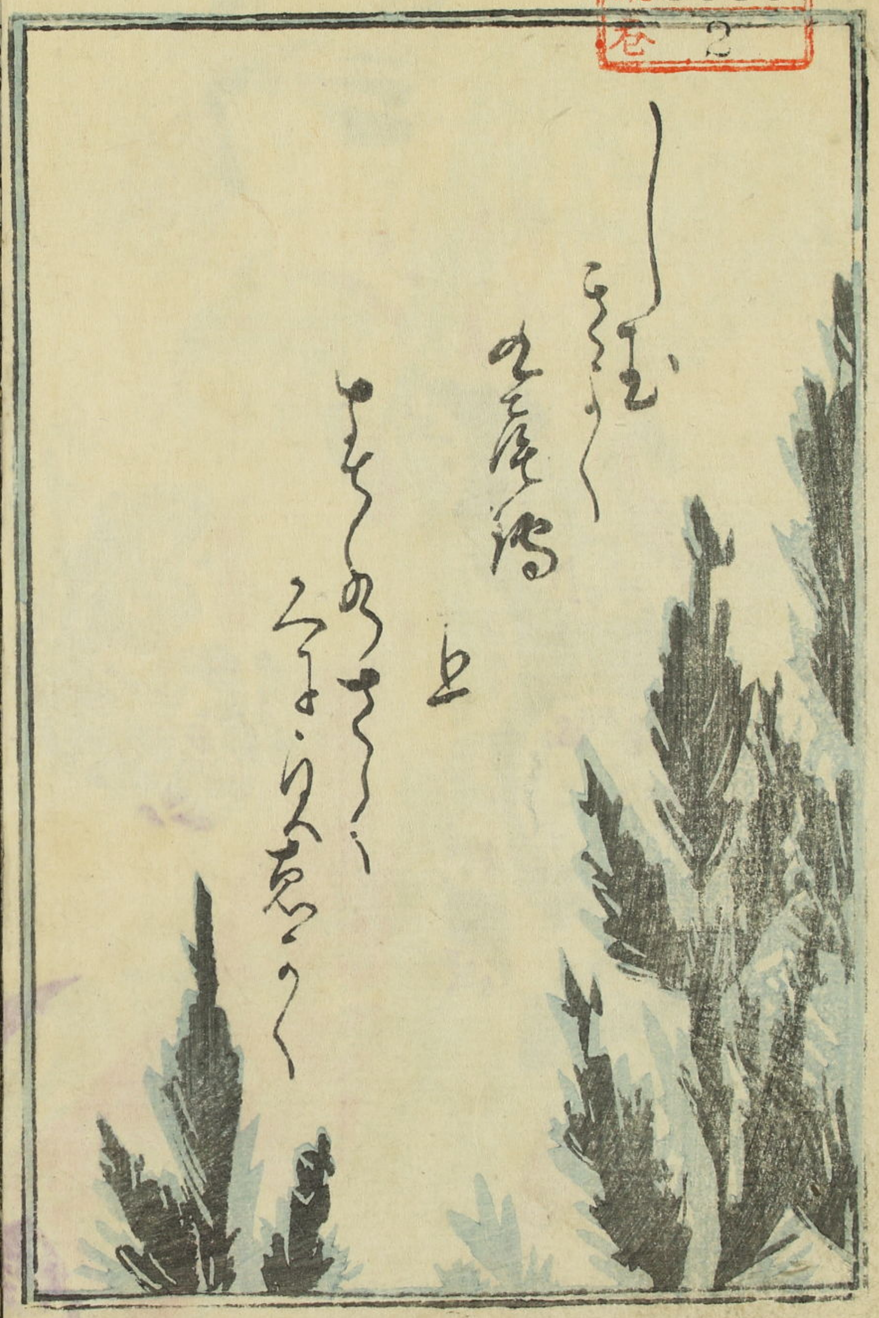
へ 13
3683
2

九尾傳
三笛上
三笛下

門へ13
號3683
巻2



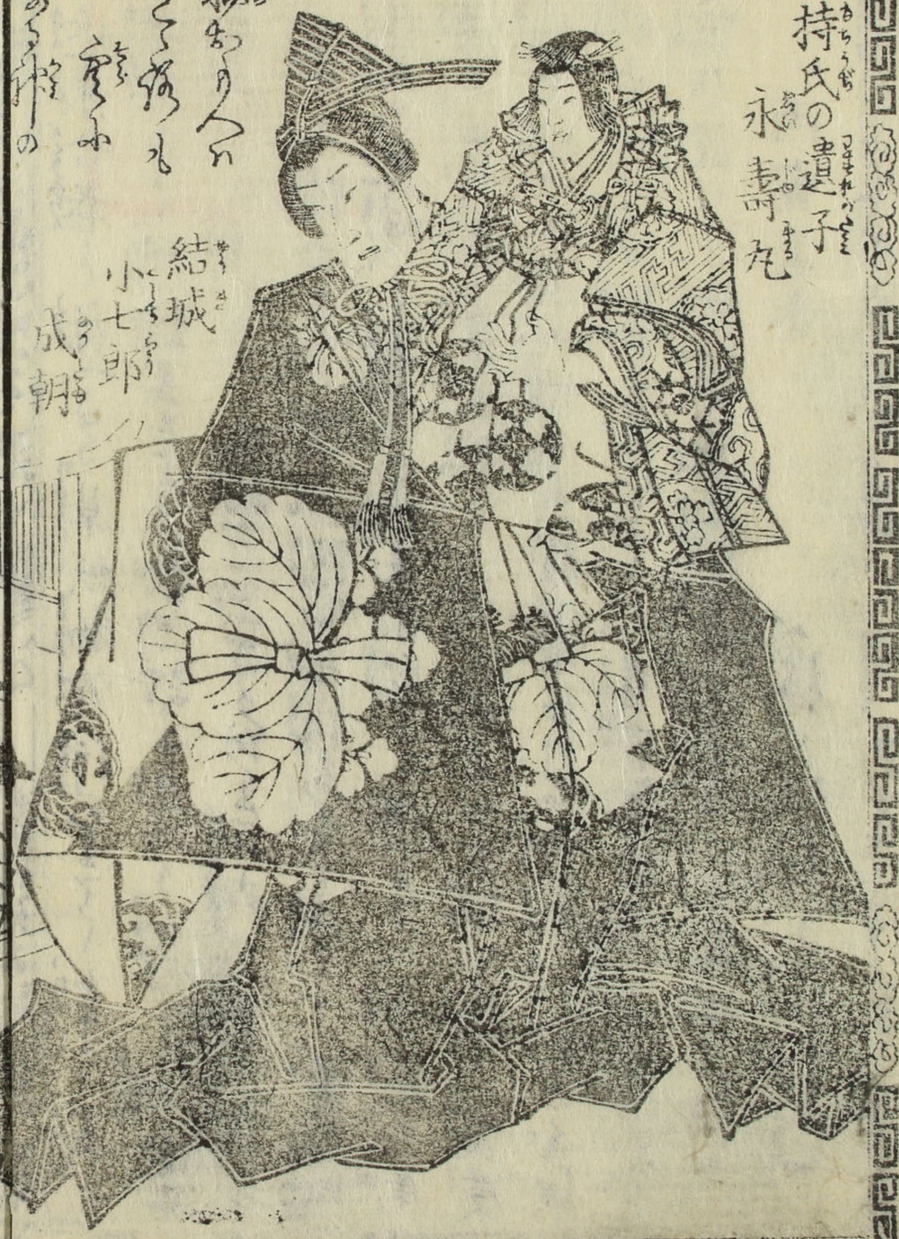
一

近来合巻と称へたる。草紙物語行はまてく。年々歳々
諸方にて刊刻なきもの数万部に及べり。然ども半途に
立消して。俟てども後輯の出ざるものまゝ或は一年或は
二年に稍にして一帙か二帙を出板なきも尋ぬ。再ハ咸
作者の怠慢と書房の他事に耽るに憑まり。今這九尾
傳の一書ハ年毎に五帙とし。五年に廿五編を綴り。愛度
局を結びんとのふ始ようの腹藁なれバ書画刻彫の手紙
明ぞ。殊さら制衣に義をそし。看宮をして倦しめざらんと
憶ひ設けし樂屋の趣向を舞臺に出して端書に換也。

丙寅孟春

爲永春水誌

[illegible]

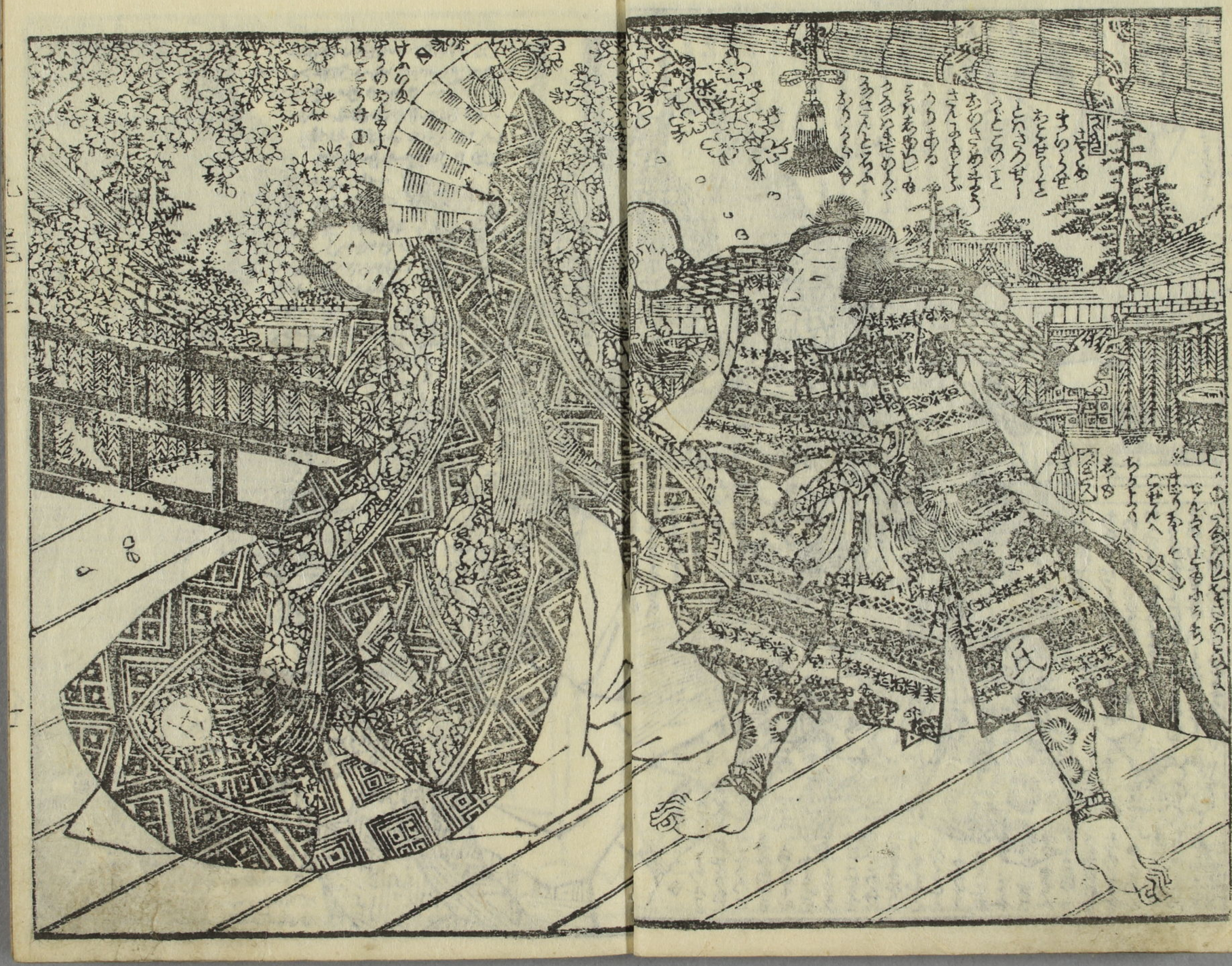


持氏の遺子
永壽丸

結城
小七郎
成朝

千葉の息女
楓姫

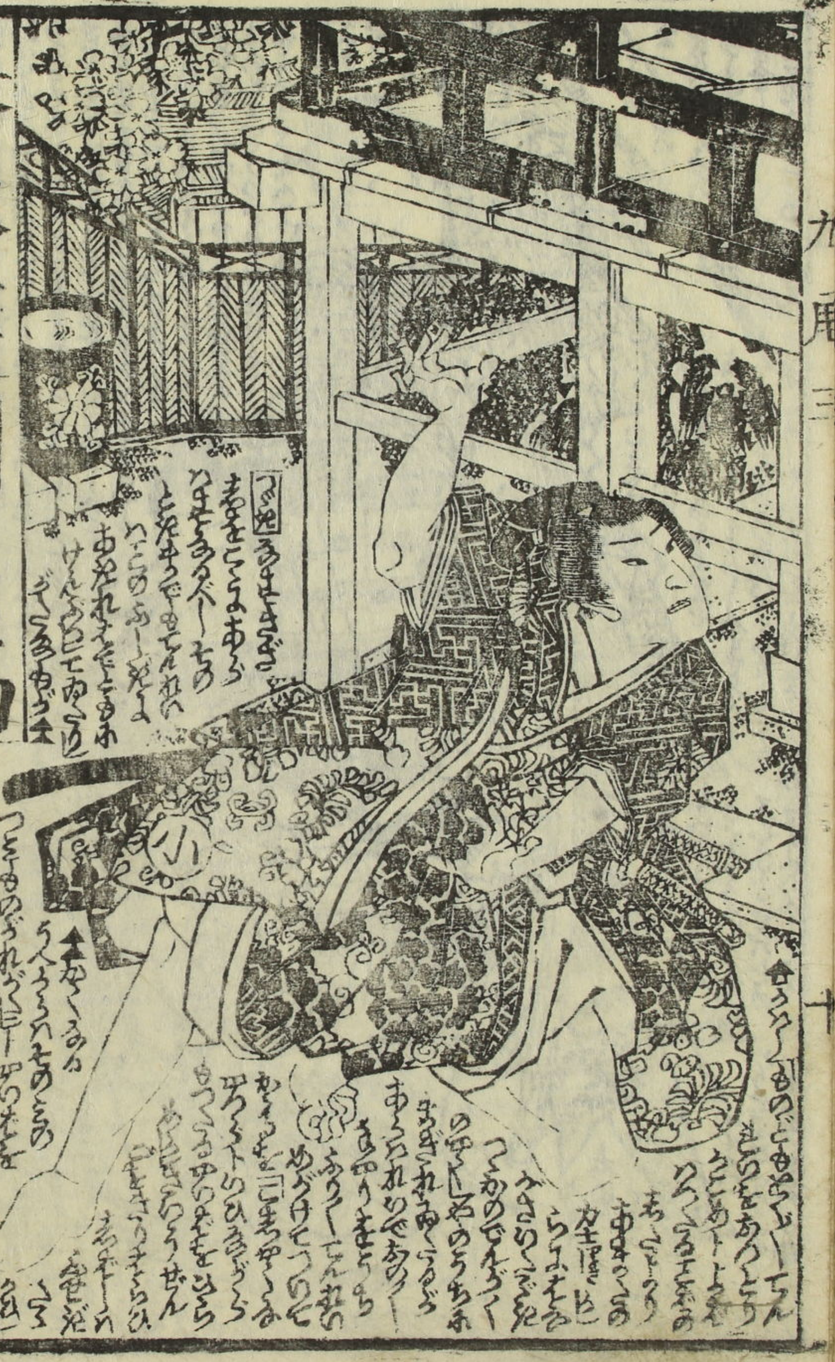
尾形計藏
利季
九 尾三
九 尾三

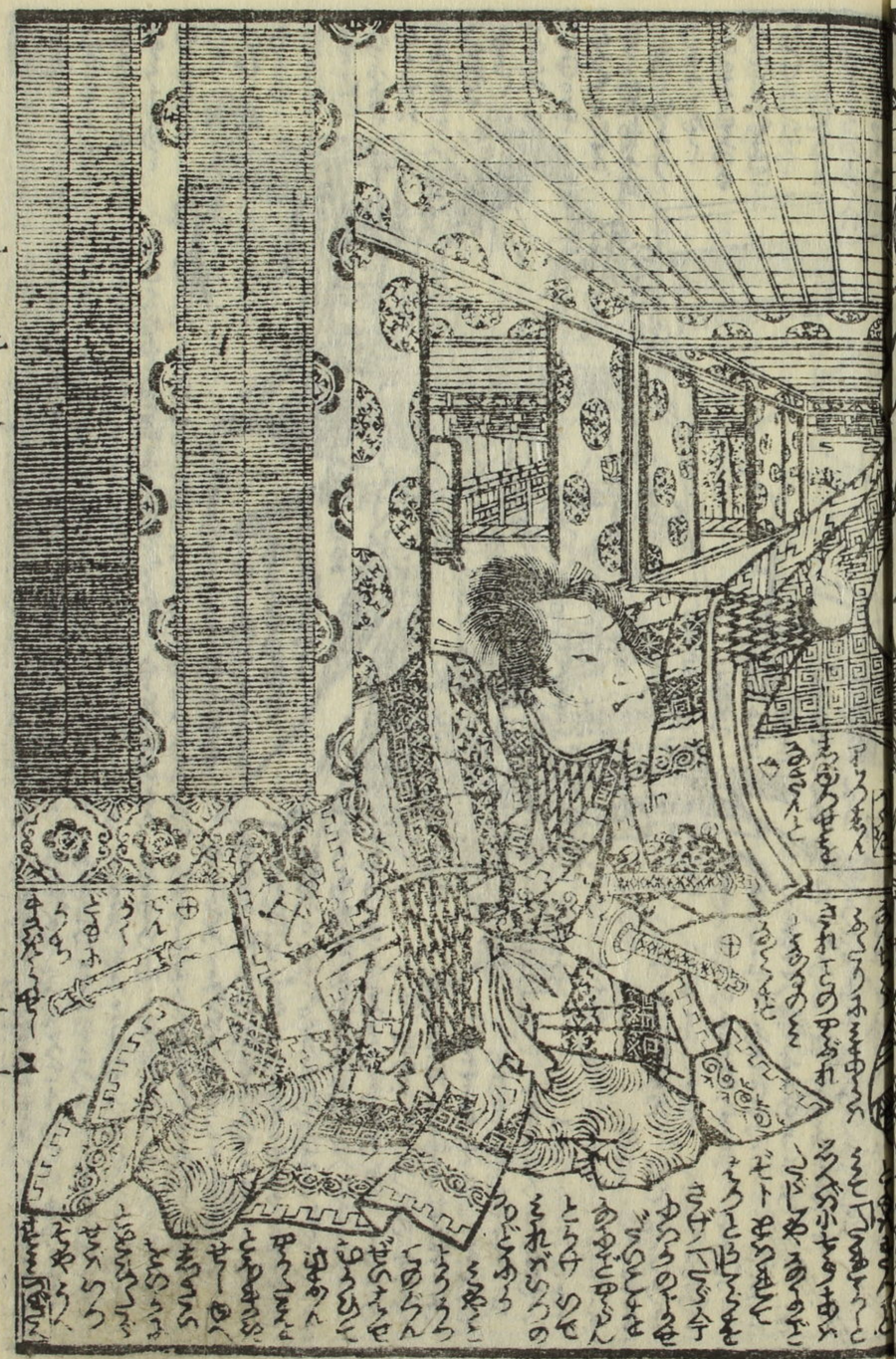


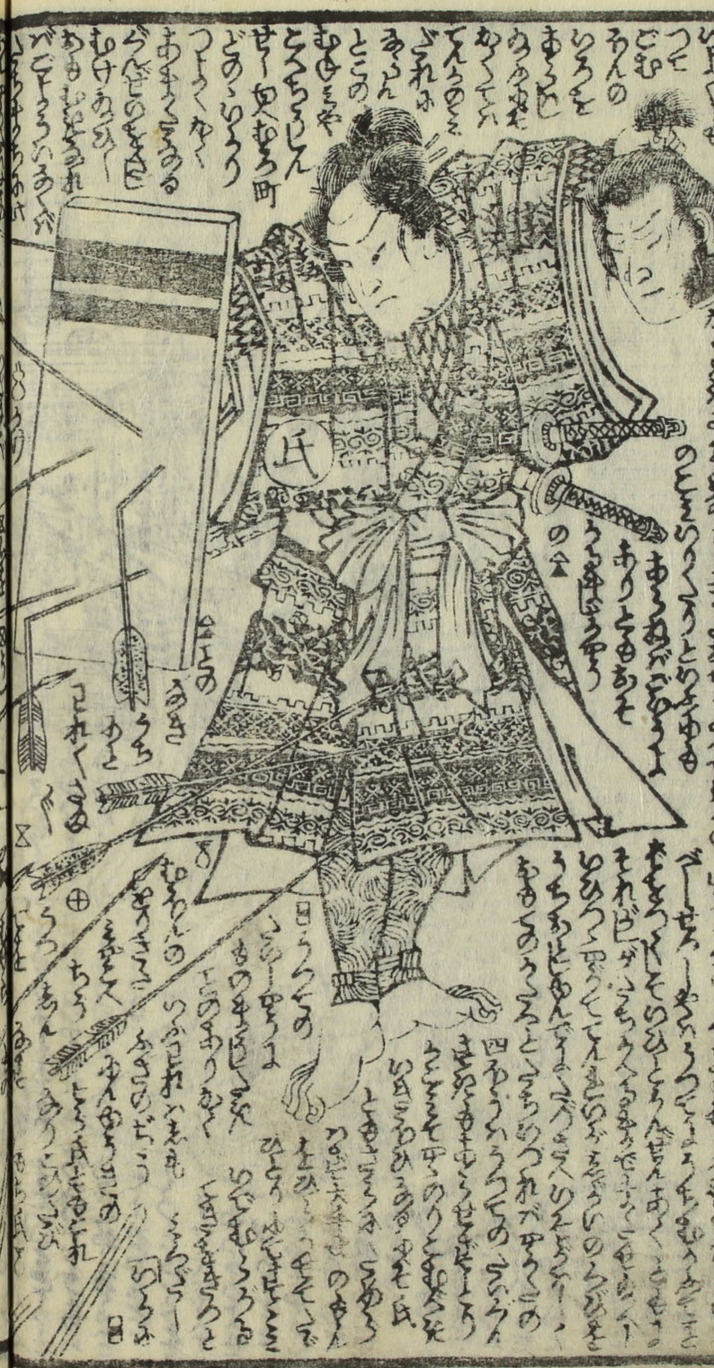
持
典

兵

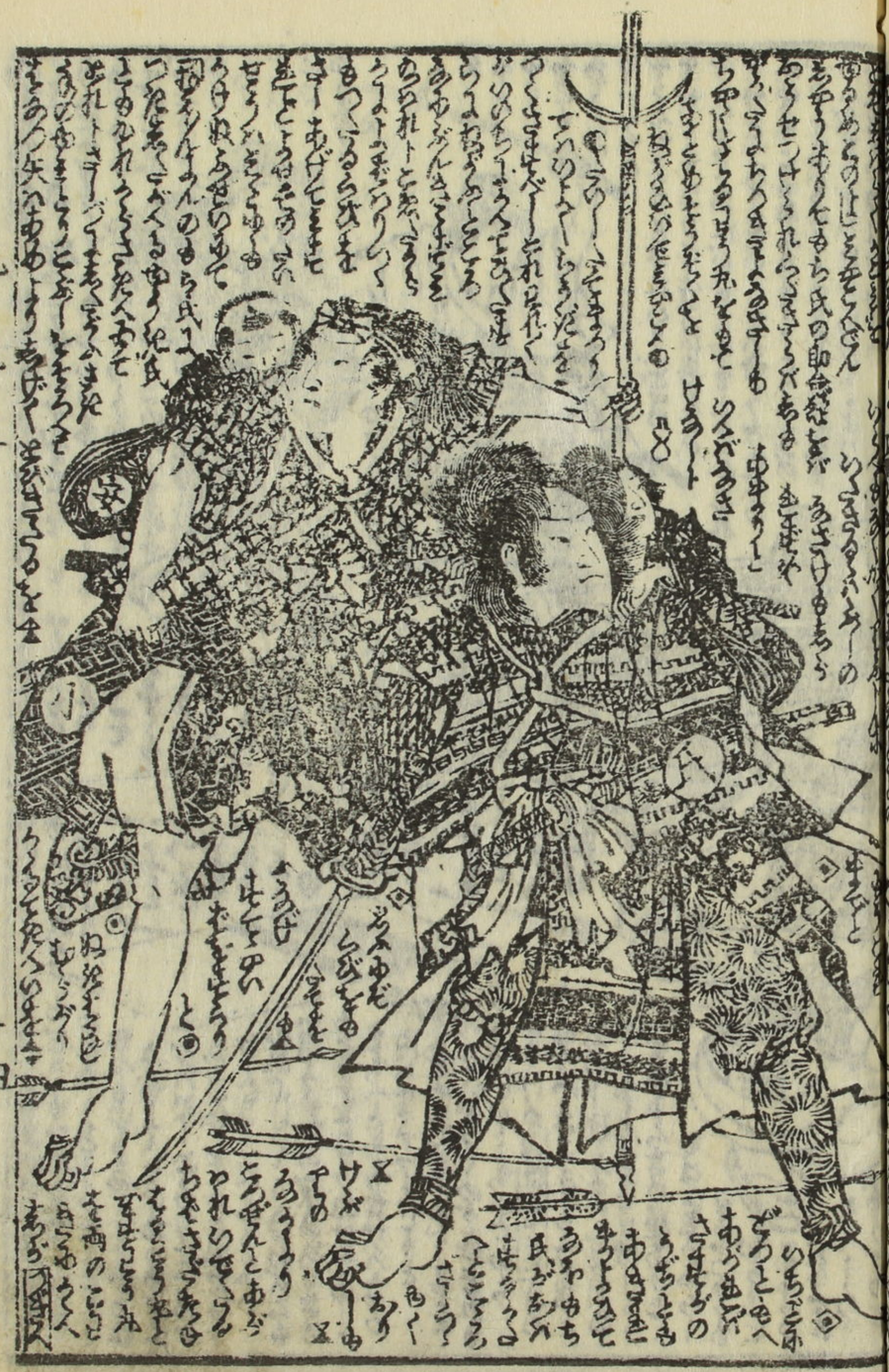
春水作 国貞画

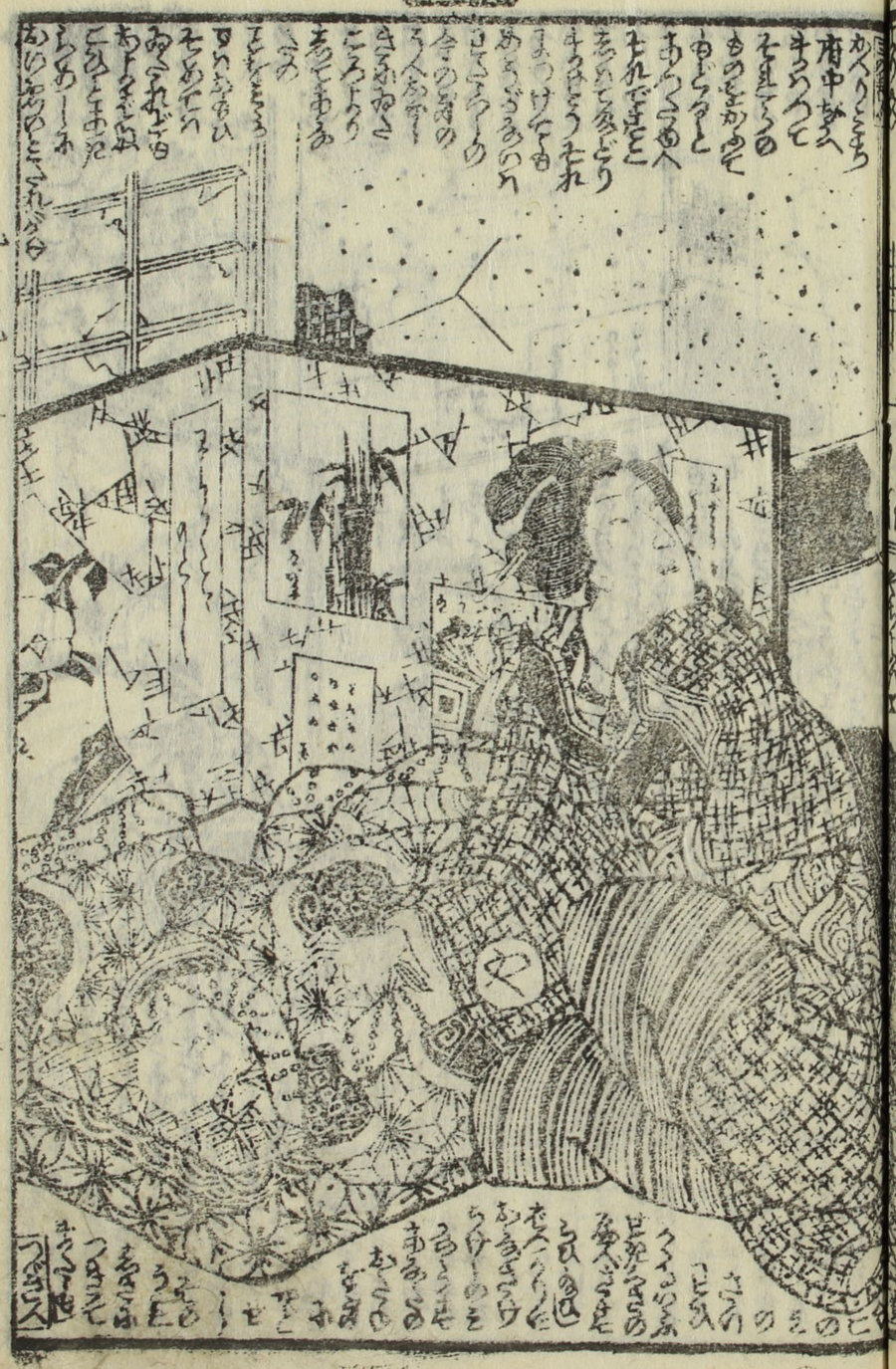


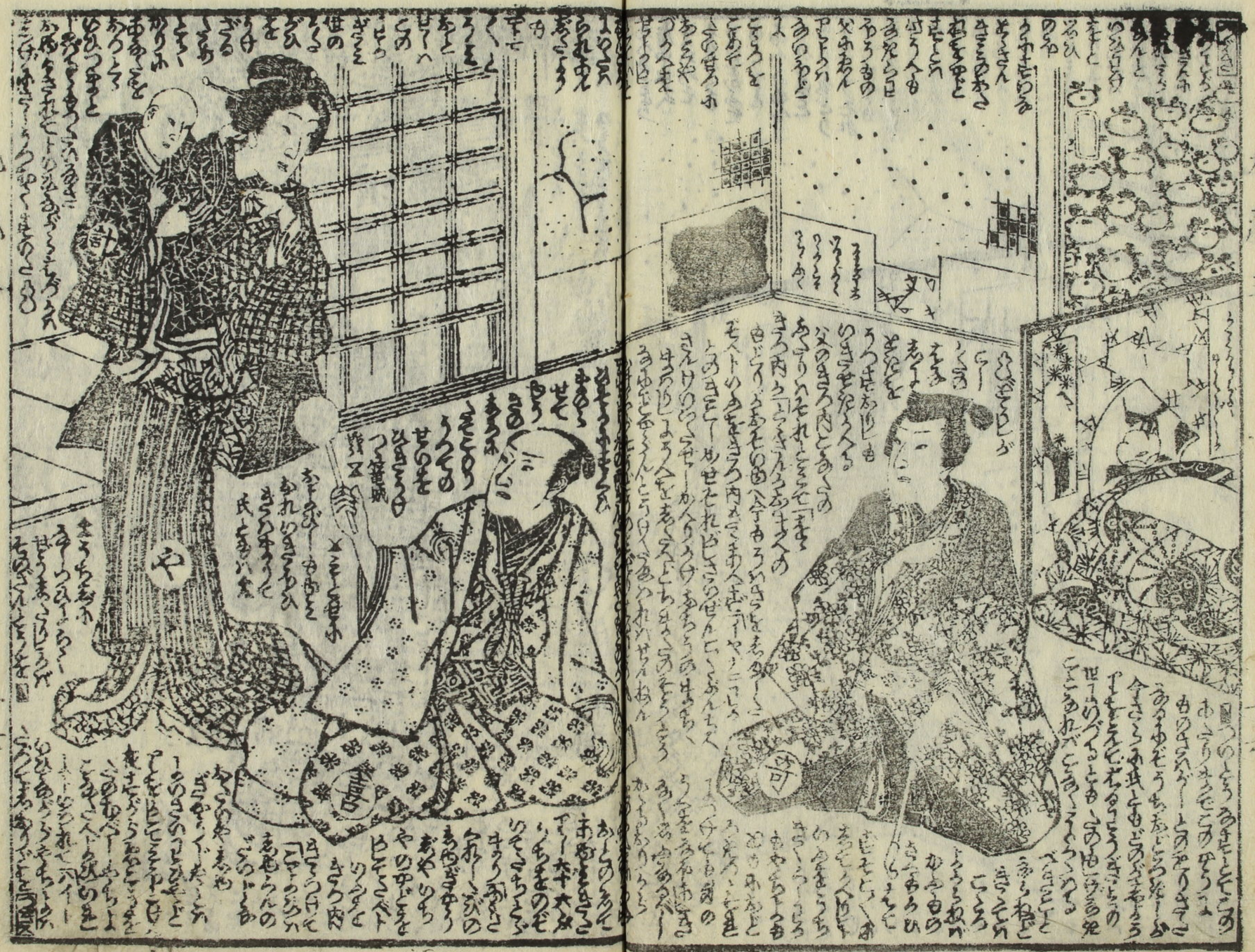

貞
持


氏

氏



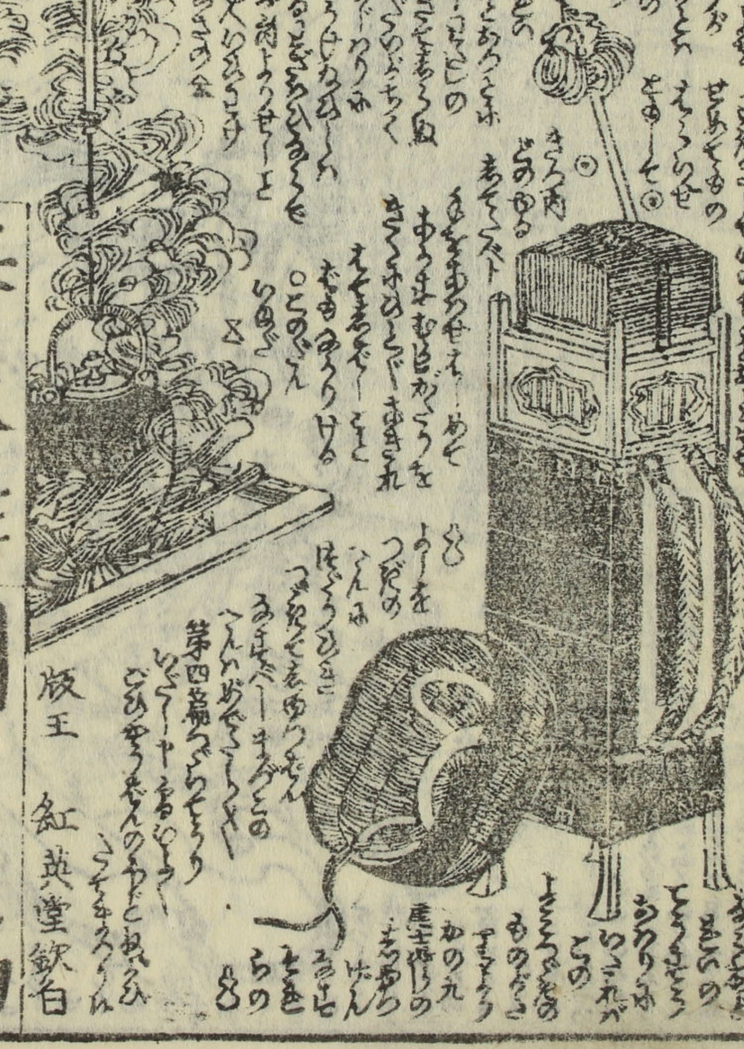


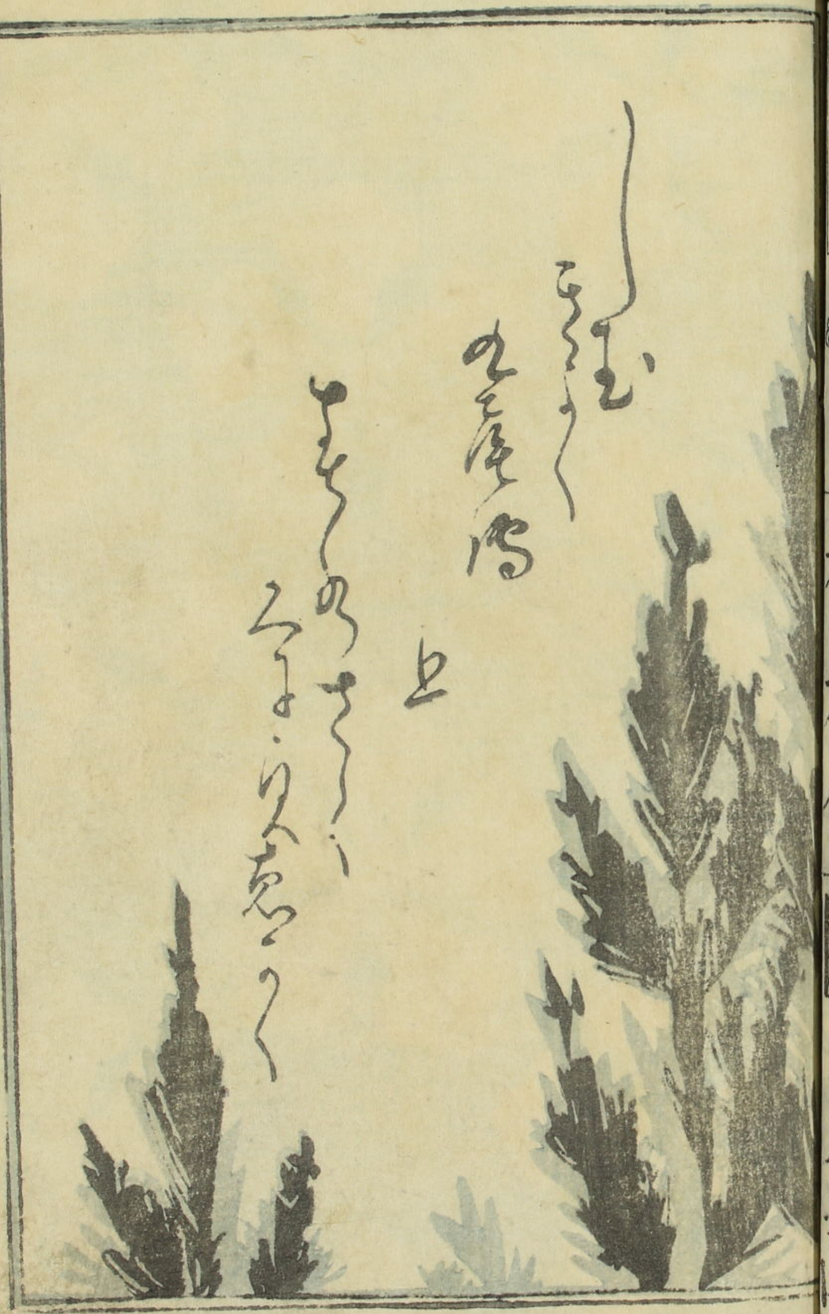


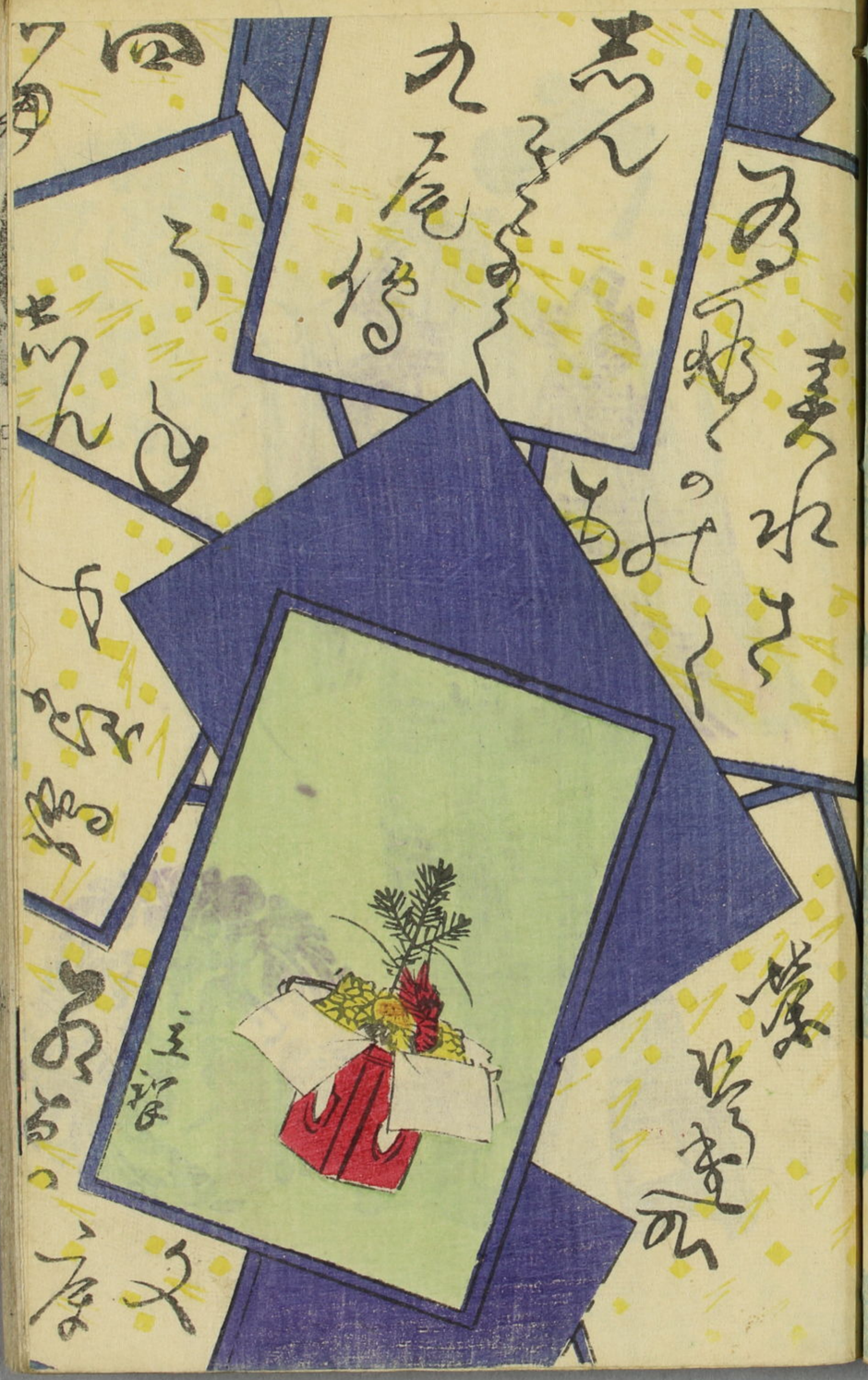
喜
奇

や

春水作國貞画

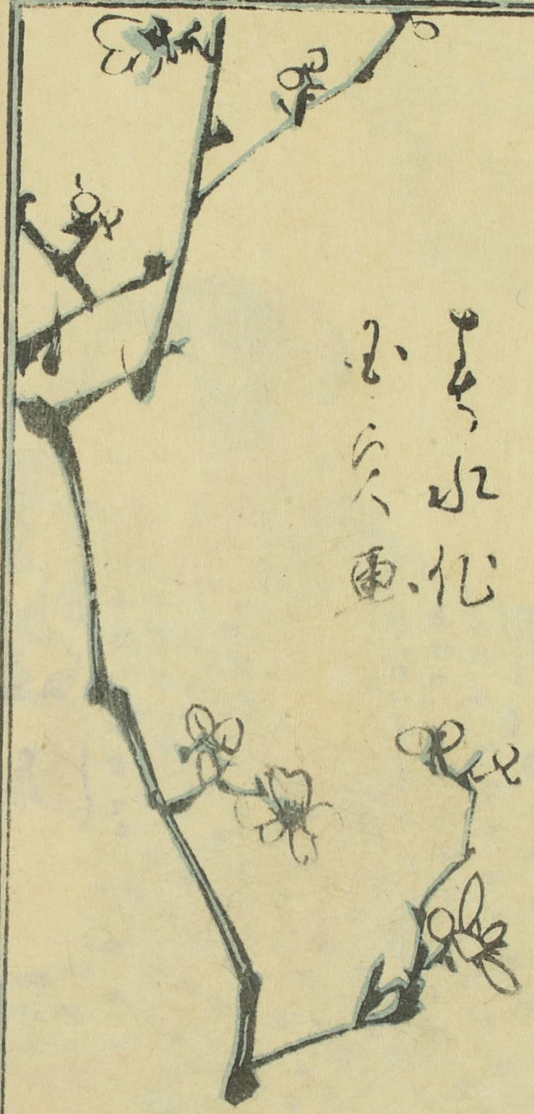






新局の尾偈

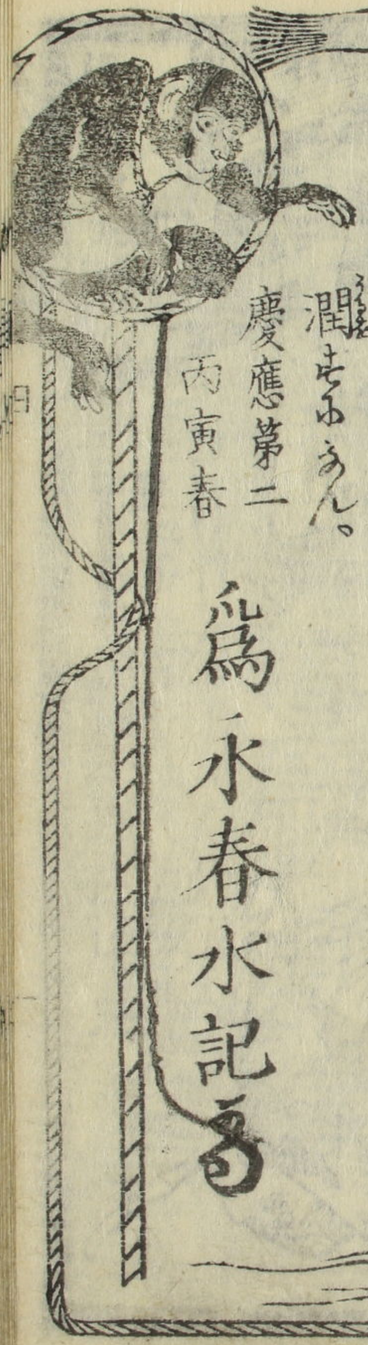
まつ水化
ぶ人画

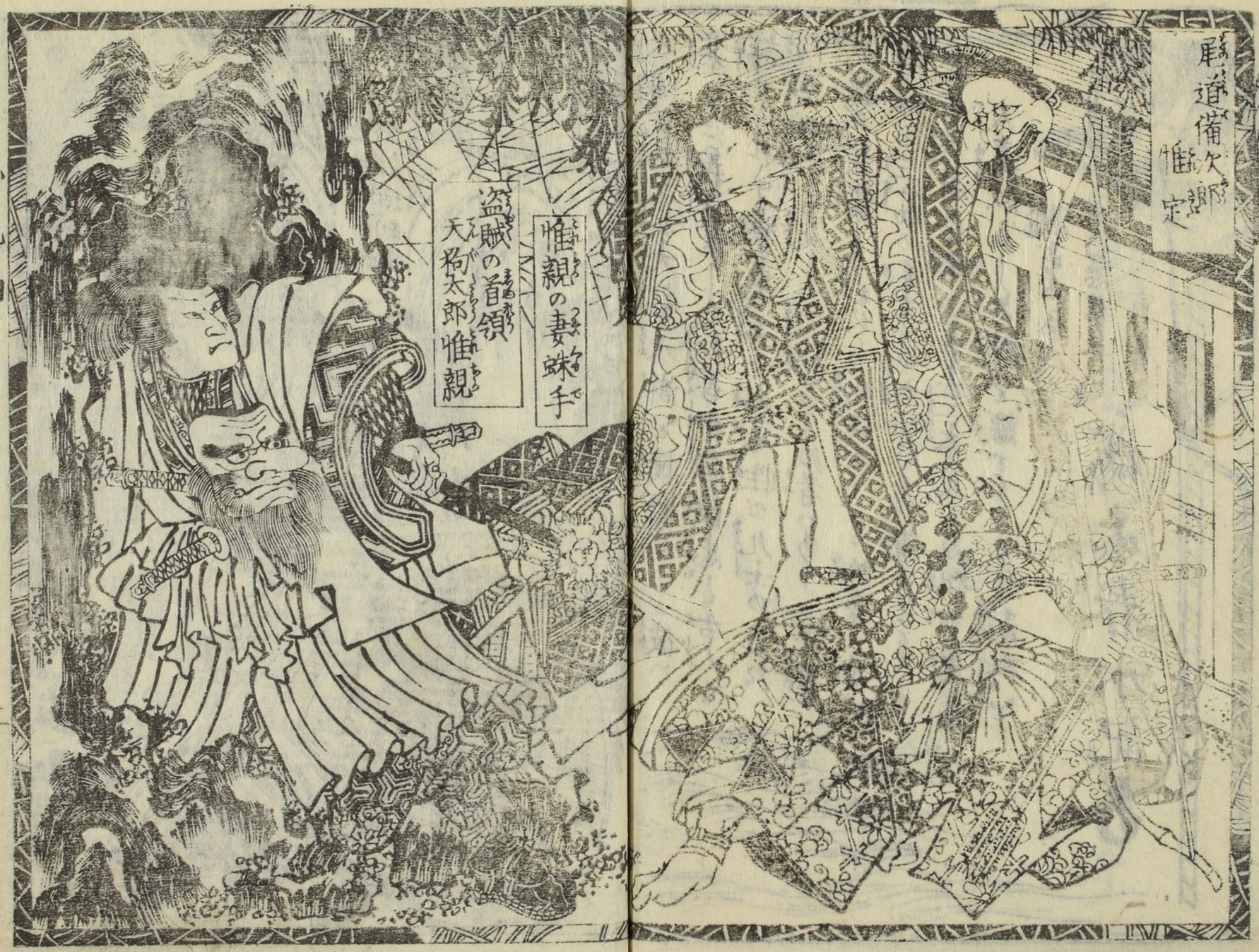


本傳の赴く処大槩水滸を摸擬せしが彼ハ
基とも義盗にして初善中悪後忠と古人も
評せられたる事あり予が此尾性の九士のごとく
初善なりしも反りて兇悪なるぬ者ハなし這ハ是
妖狐の悪霊より。おのく出現なしたる故なり。尓ハ
身体に三筋の毛ありて九士たるの證となれども。
念へバ烏滸の筆ぞさえ三本足らぬ狙智恵より。
人真似らしき絆を緩まくりて新研を
潤せにあん。

慶應第二
丙寅春

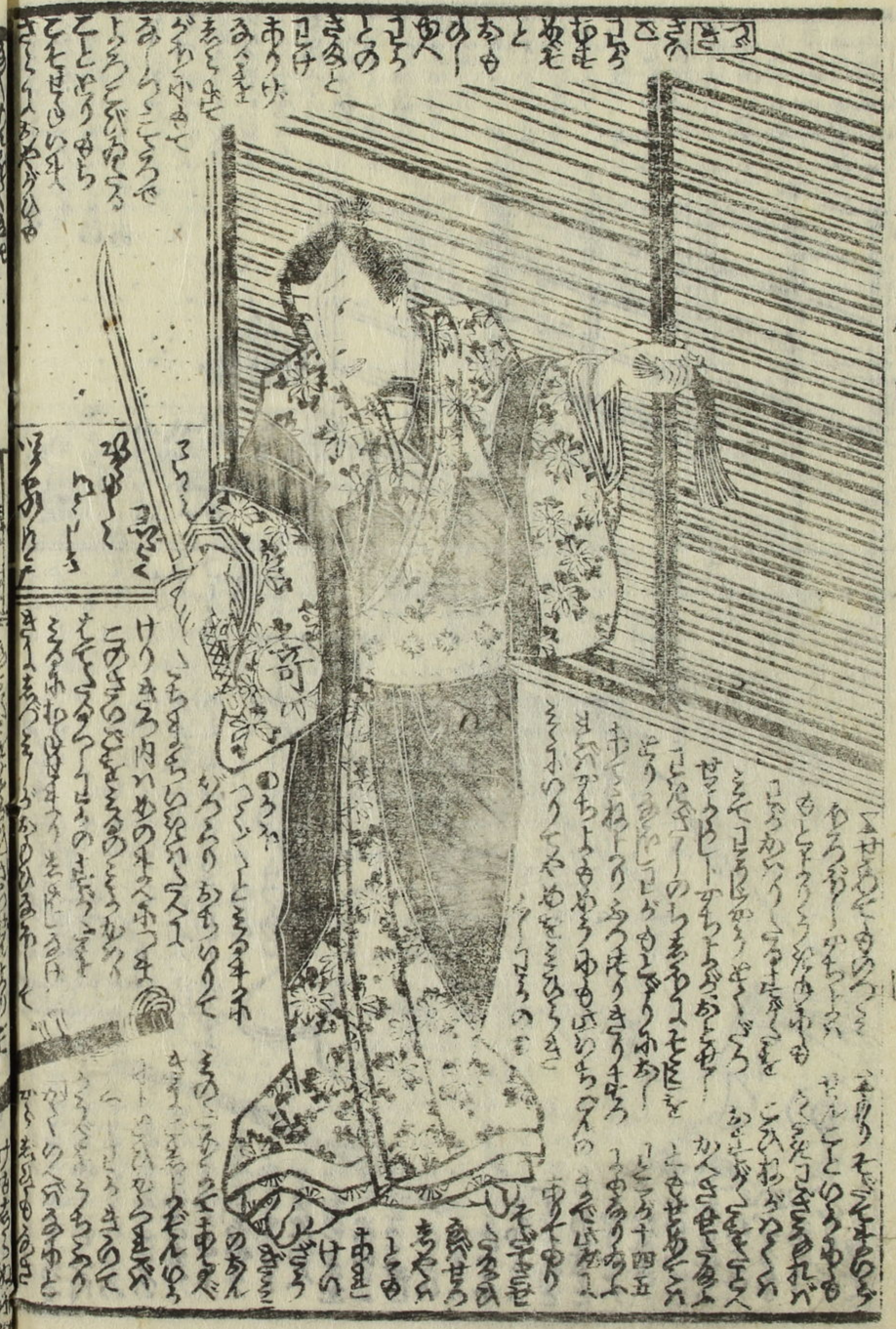
爲永春水記





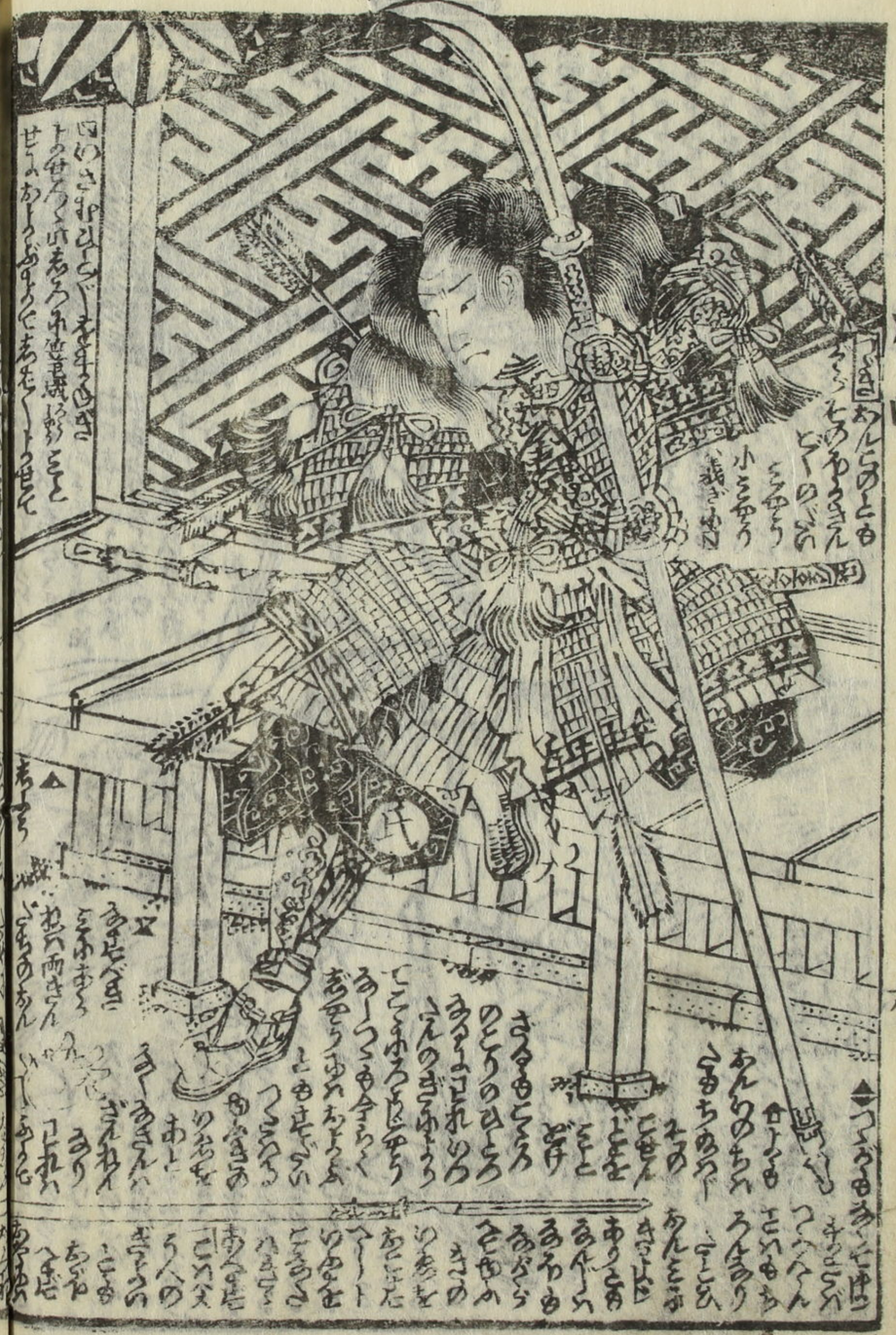
惟親の妻蛛手
盗賊の首領
天狗太郎惟親
尾道備次郎
惟定

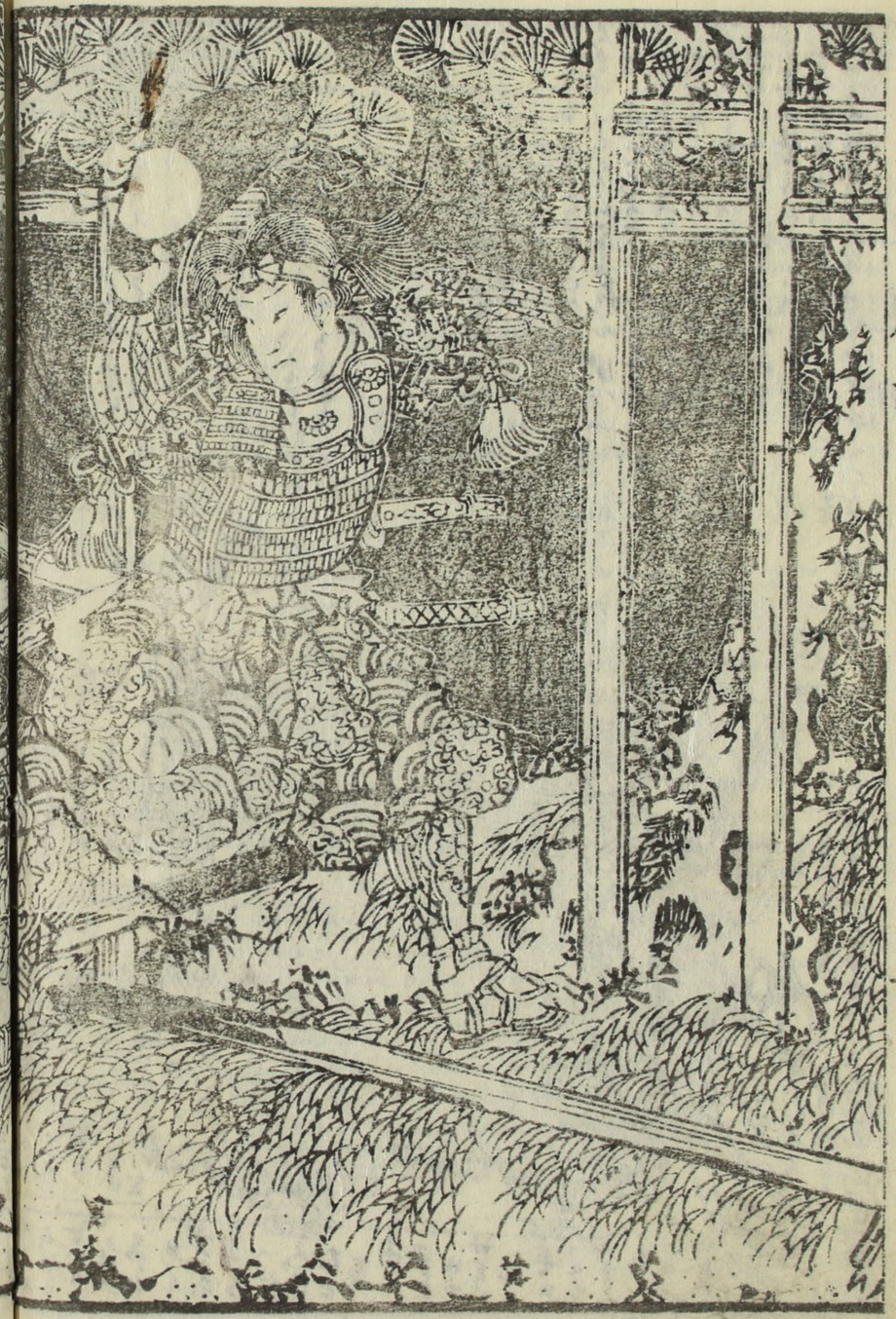
賢女忍實の
尾形計造利季



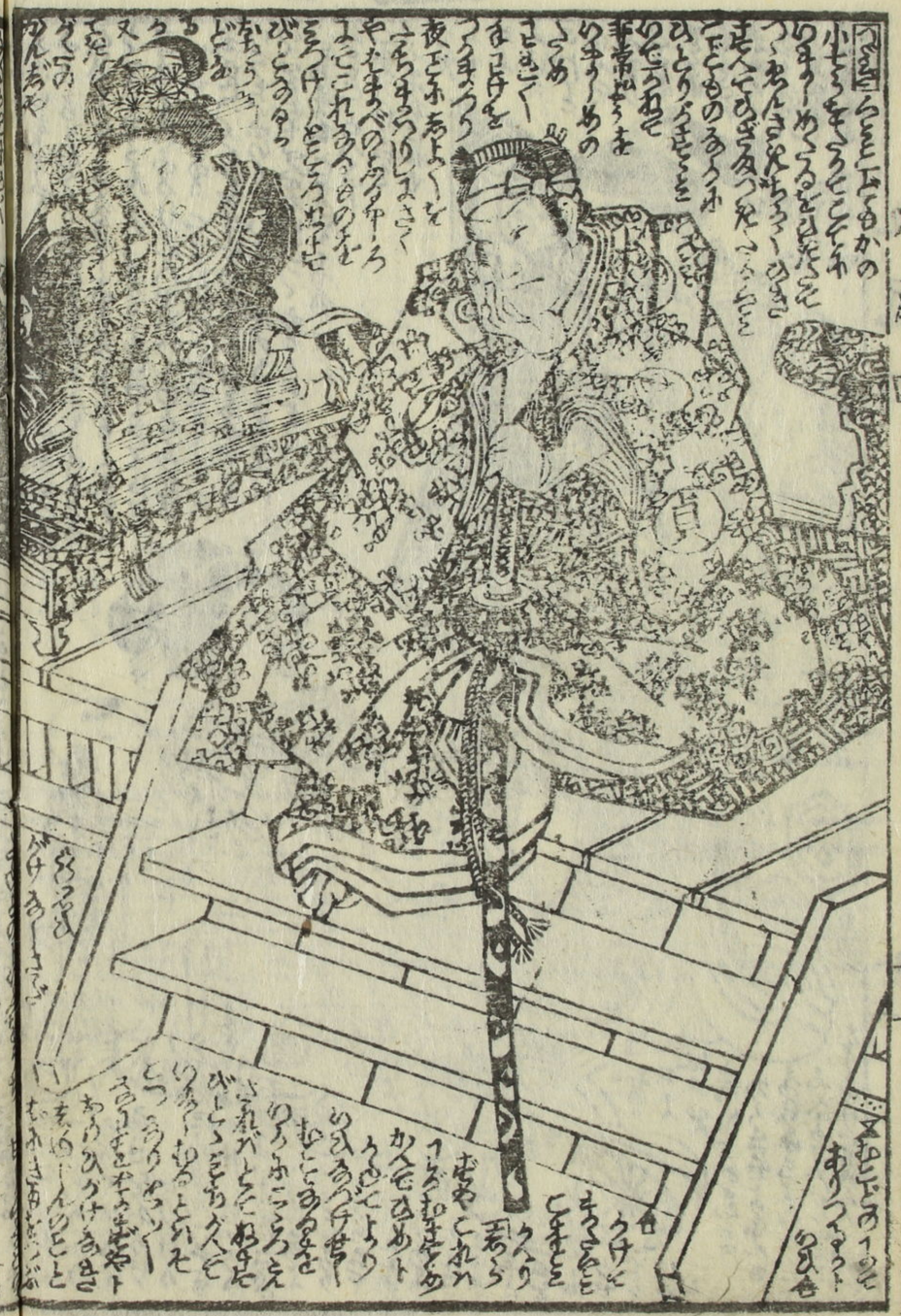
奇

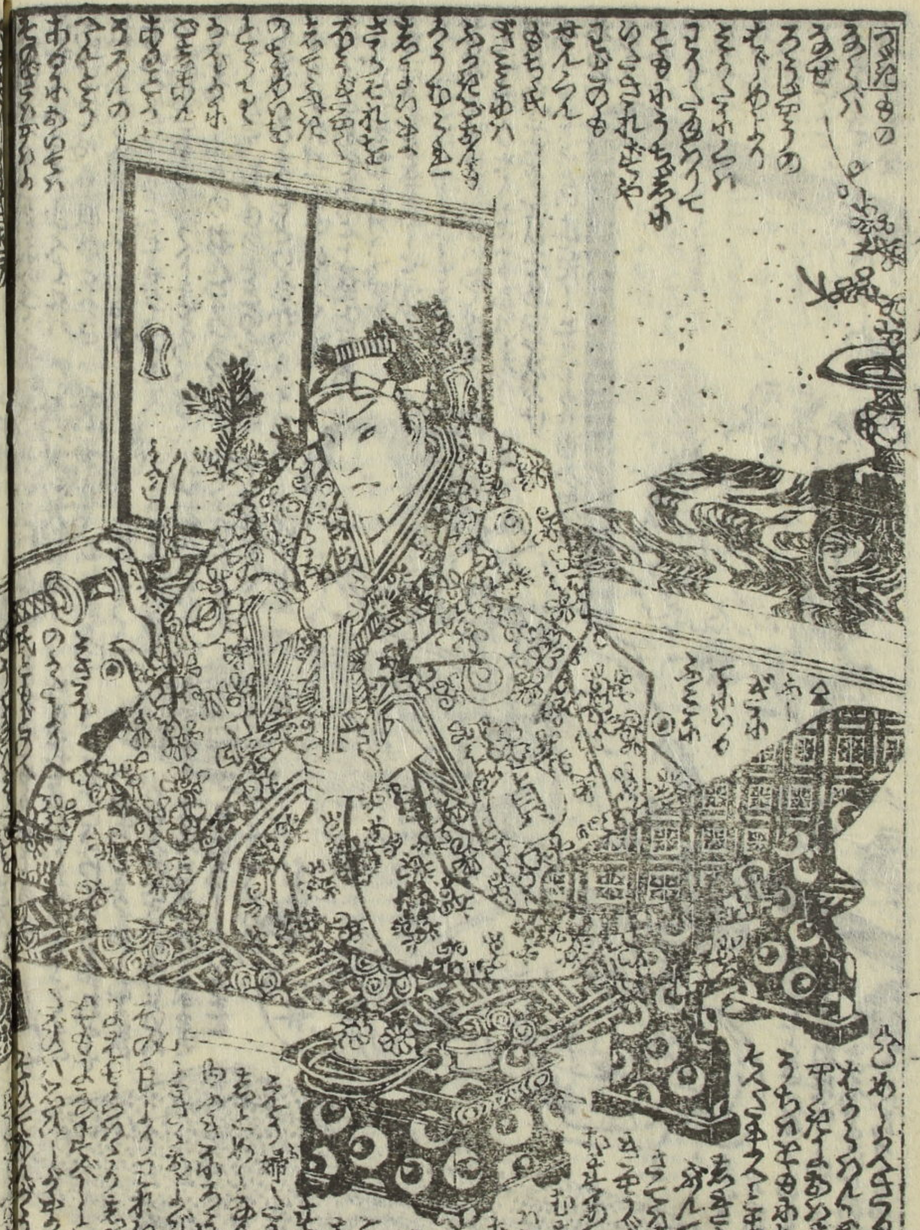
喜

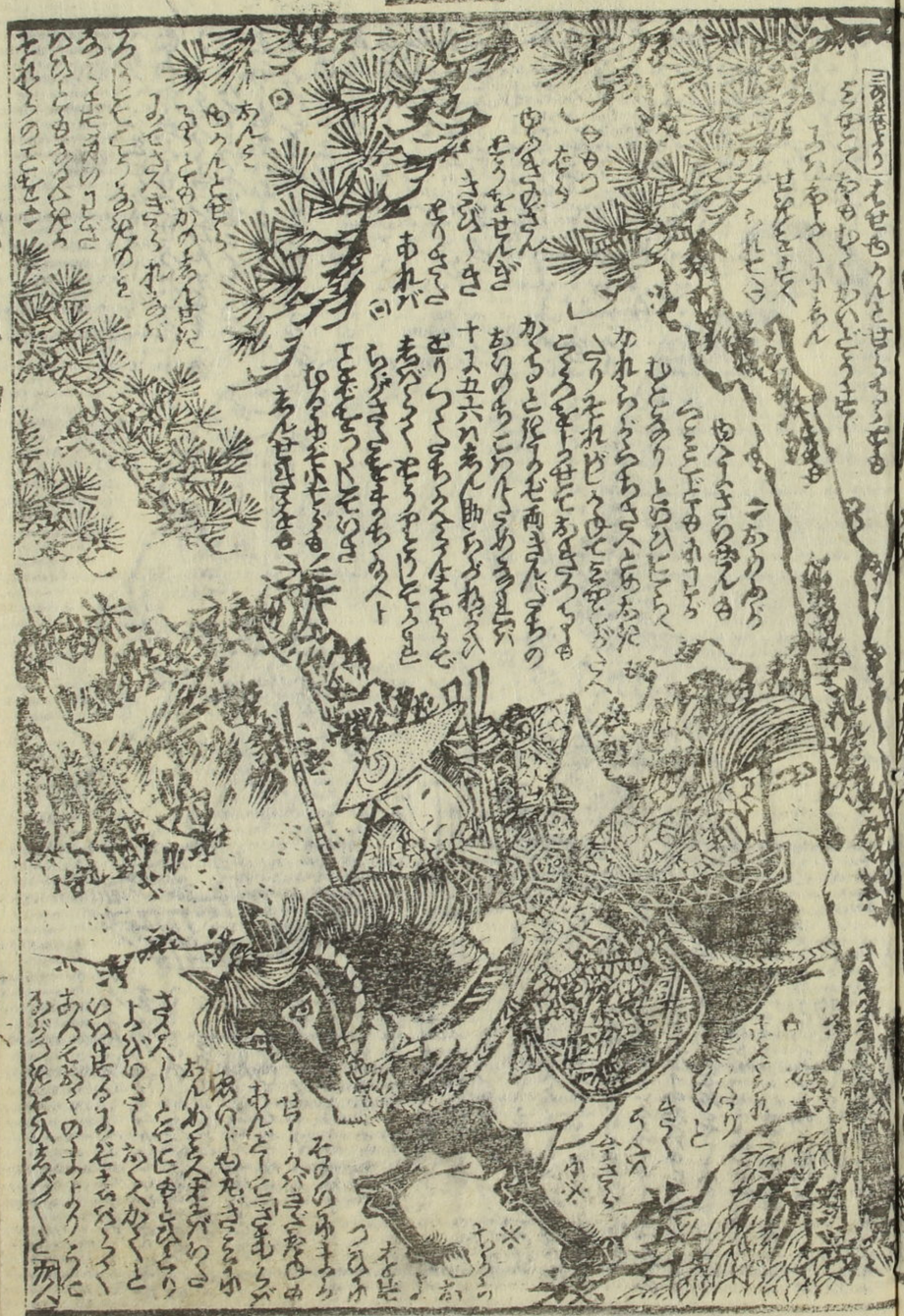


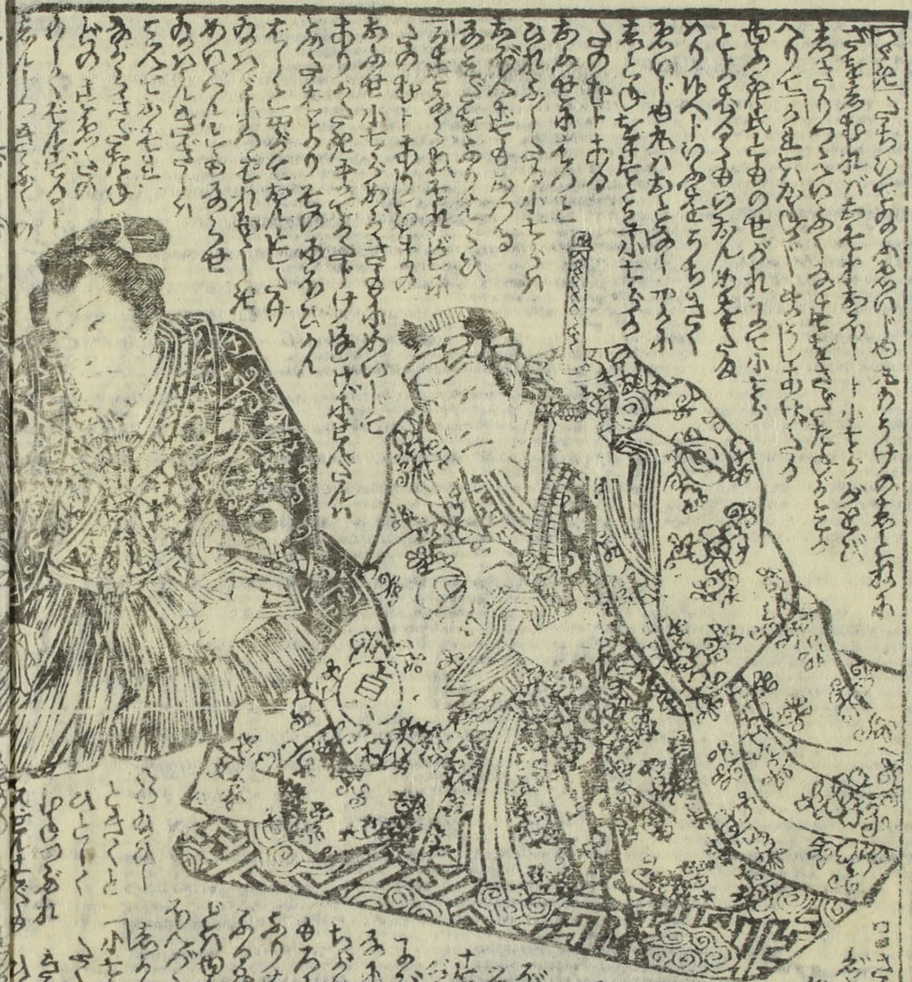


春水作　國貞画









為永春水作
歌川國貞画